

# 本校における新型コロナに対する行事の対応について (実践報告)

生徒指導部 (生徒会) 三井 陽介、伊吹憲治

## 1. はじめに

新型コロナの感染に伴い学校の休校、授業時間数が減る中、本校では、行事の再検討を実施した。新型コロナの影響により長期休業の日数も短くなり、高校生も疲弊している様子が見受けられた。より高校生活を充実させるため、さらには、学習では学ぶことのできない学びを深めるために、感染症対策を講じながらも生徒の力が発揮できるような環境作りを心がけて準備・運営を行った。

## 2. 主な行事について

日付	行事名	対応方法	
5月27日(水)	クラスマッチ	休校中のため中止	
9月16日(水)	体育祭	碧海野祭	3日間の予定を2日間(体育祭・文化祭)に短縮して実施
9月17日(木)	講堂発表		
9月18日(金)	文化祭		
3月12日(金)	三送会	日付を変更し、縮小し実施予定	

## 3. 感染症対策について

主に三密(密閉・密集・密接)を避けることを前提とし対策を考えた。

## 4. 体育祭での具体例

感染症対策

- ・ソーシャルディスタンスを保つ
- ・道具の共有をなるべく避けるまたは、消毒を実施する

### i) 種目の変更

変更した種目	変更後の種目
1000M走	(ア) マッスルチャンピオン
クラス対抗8人9脚	(イ) トレインレース
団対抗玉入れ	(ウ) 団対抗玉入れ(実施方法を変更)
団対抗綱引き	(エ) バルーンファイト
クラス対抗大縄跳び	(オ) ゆっくり自転車
	(カ) キックターゲット

・種目変更することにより、参加人数が減らないように注意した

ii) 変更後の種目紹介

①マッスルチャンピオン



図 1



図 2

土嚢に土を入れ、頭の上に肘を伸ばして持ち上げ、長時間持ち上げる競技

②トレインレース



図 3



図 4

塩ビパイプを四人組で持ちながら、前方のコーンを回りながら走り競争する競技

③団対抗玉入れ



図 5



図 6

通常の玉入れでは、密集する可能性が高いため、今年度の玉入れは1人2球を投げるという方法で玉入れを実施した

#### ④バルーンファイト



図 7



図 8

1チーム12名、5チームで同時に対戦する。一人一つ付いている風船を割る競技  
時間内で割れていない風船が多いチームが勝利となる競技

#### ⑤ゆっくり自転車



図 9

線の上から出ない・足をつかないようにどれだけゆっくり前に進むかを競う競技

#### ⑥キックターゲット



図 10



図 11

ボールを蹴って的に当たる競技。9名でボールを蹴って多くの的に当たったグループが勝利

### 5. 体育祭の考察

例年の体育祭と異なり、大きな声での声援やグループが団結できる場面が少ないように感じたが、準備から片付けまで生徒が中心となり、感染対策をしながら素晴らしい体育祭を作り上げることがで

きた。新しい種目に関しては感染症対策としては効果が見られたが、細部にわたるルール変更や競技の見直しをしていかなければならないと感じた。

## 6. 文化祭での感染症対策

### (1) 具体例（実践例）

令和2年度碧海野祭の文化祭では、感染症対策として以下の形で実施した。

#### i) 講堂発表と文化部発表

本校は例年、大学の講堂にて吹奏楽部・演劇部・ダンス部・合唱部を中心とする発表を行っているが、今年は人数的にも演目的にも舞台上でこれらの部活動の発表は困難であり、全校生徒が講堂に集まるという状況も、密集具合や換気が不十分である点を考慮して今年度は中止せざるを得ないという判断をした。

代わりに学校の体育館で換気や観客のスペースを十分にとった（図1）上で、発表の人数を三人以下の有志発表、もしくは映像による文化部発表・生徒会発表を行うこととした。有志発表は事前にオーディションを行い、ダンスなどの演者の距離が近い発表については距離をとるように指示をした。観客については、密集を避けるため全校生徒と一緒に発表を観るのではなく、興味のある発表を生徒が自由に見に来る形態にした（ただし上限は100名程度を想定）。さらに体育館入り口でアルコールの除菌ウェットティッシュを配布し、自分が座る前にイスを消毒するようにさせた。

また例年は校舎の各教室で行われている文化部の発表も広いスペースを確保するため、体育館にそれぞれブースを作り、展示を中心とした形で発表させた。生徒の密集を避け、発表を見やすくするために、映像発表・有志発表・文化部発表の時間を設け、午前と午後で1回ずつ、ローテーションで発表するようにした。

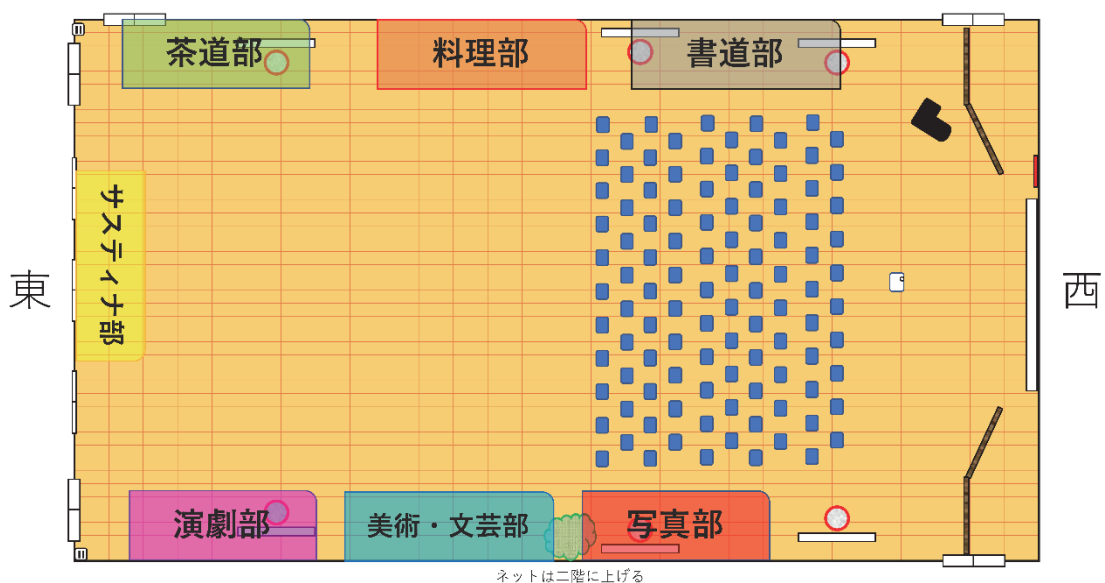


図12 体育館配置図

#### ii) 1年校内発表

1、2年生の校内発表は例年、学びの要素を交えた体験やアトラクションを中心とした発表

であるが、今年度は入場者の密集を避けるために、立体造形を中心とする展示発表とした。入場者が何かを作成する場合、道具などの消毒を徹底し、自分で作ったものを自分で持ち帰ることは可、他人が一部でも手を加えたものは感染防止の観点から不可とした。

以下、今年度感染症対策として新たに発表規定に加えたものを挙げておく。

- ① 常に換気ができる状態とし、段ボール等で窓や扉をふさぐことは禁止とする。
- ② 発表時には必ずクラスで担当者を配置すること。
- ③ クラスの担当者の説明や案内および呼び込みや宣伝で、複数人が大声を出すことは禁止する。
- ④ 観客や入場者が大声を発することや密集・密接することは禁止とする。
- ⑤ 不特定多数の人が接するような物を制作する場合には、その都度消毒ができるようなものとする。
- ⑥ 仕切りを設ける場合は、仕切りと仕切りの間隔を2M以上あけること。
- ⑦ 感染症予防対策として以下を遵守すること。
  - ・マスクを外しての会話はしないこと
  - ・一度に教室に入室する人数は20人までとする（主催者側を除く）
  - ・入口、出口を決めて一方通行とすること
  - ・廊下で待機する際には1M以上間隔をあけて待機できるよう工夫すること
  - ・案内や説明をする場合は、観客と一定の距離を保つこと
  - ・身体が接触することは禁止する



図13 爪楊枝によるゴッホの「ひまわり」



図14 教室発表での様子

### iii) 2年校内発表

2年生の校内発表も例年、学びの要素を交えた体験やアトラクションを中心とした発表が中心であるが、今年度は入場者の密集を避けることや、発表内容のバリエーションを増やすために、1年生とは異なる映像作品発表とした。

以下、映像作品発表についての規定を挙げておく。なお、感染症対策に関わる規定については1年生と同様である。

- ① 観客や入場者が1M以上の距離を取って観覧・鑑賞することができるような工夫をする。
- ② 着席をする場合には、入れ替え時間に椅子を消毒すること。
- ③ 著作権や肖像権侵害等法令に触れる作品を制作しないようにする。
- ④ 映像作品は出演者には必ず出演の承諾をもらい、肖像権やプライバシーに配慮した作品とすること。
- ⑤ 映像作品は10分以内とし、入れ替え時間（観客を教室内に入れない時間）を10分以上とすること。



2年教室発表の様子



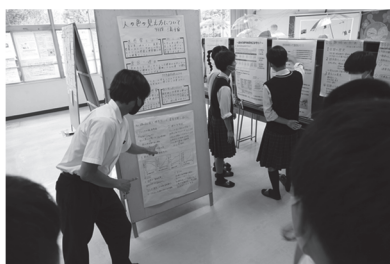
2年教室発表の様子

#### iv) 3年模擬店

3年生の校内発表は例年、食品バザーの模擬店であったが、今年度は感染症対策の観点から見て実施するのが困難と判断した。9月に入り受験勉強が大詰めを迎え、推薦や総合型選抜の準備も本格化する中で、3年生への過度な負担を避けるために、団のPRとなる映像や、文系の総合や理系の課題研究の成果を発表する形にした。ただし、3年生の発表については審査の対象外とし、碧海野祭の総合順位には影響がないようにし、特に表彰するにふさわしい内容の発表であると教職員及び生徒会に認められた場合特別賞として表彰することとした。なお、感染症対策に関わる規定については1・2年生の発表規定と同様である。

#### v) その他

本校は例年、外部への公開は行っていなかったが、今年度は保護者・卒業生に対しての公開も行わなかった。



3年教室発表の様子



3年教室発表の様子

## (2) 考察

体育館の発表については、校舎での密集を避けるという点に関してある程度効果があった。ただ、全体的に映像発表が多くなり、ライブでやる有志発表には入場制限をせざるを得ないほど人が集まった。今後、もっと人が分散するように発表内容の工夫や、体育館に入場できなかった生徒向けに Zoom などを使った配信で、別の場所でも観られる工夫をしていく必要がある。

1年生の校内発表については、立体造形物を作るといったノウハウがなく、苦戦しているクラスもあったが、自分たちなりに工夫をして発表することができた。

2年生の校内発表については、どのクラスもオリジナリティあふれる映像作品ができあがっており、今後にも期待が持てる内容であった。反省点として、映像の編集を担当する生徒への負担が大きかった点、上映回数が少なかったことから、観ることができなかった生徒が多かった点が挙げられる。

3年生の校内発表については、個人の発表だったがどの発表もしっかりと練られ、ポスターなどのクオリティも高かった。ポスターセッション形式で同時に複数の発表者がいたので、発表の順番を決め、教室のプロジェクターを活用して、もう少し落ち着いて発表を聞ける環境を整えた方が良かったと感じた。今後、総合や課題研究の成果発表は本校において重要な位置づけになると考えられるので、今回の反省を活かしていきたい。

全体としては、大きな混乱もなく、無事に終えることができた。例年と比べて発表規定が変わっている箇所も多く、変更点を周知徹底させることの難しさを感じた。文化祭の取り組みとしては初めてのことが多く、教員も生徒も戸惑った点が多々見受けられたが、今年取り組みをもとに来年度以降、よりブラッシュアップした形にしていくことができれば良いと考えている。